

大会名 Competition	秋田国体記念 第20回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-206	Year Month Day Time 2007 年 5 月 5 日 12 : 40
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A 山形商高 68 ○	<table border="1"> <tr><td>17 1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>18 2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>17 3rd</td><td>12</td></tr> <tr><td>16 4th</td><td>20</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">OT</td></tr> </table>	17 1st	19	18 2nd	16	17 3rd	12	16 4th	20	OT		チーム B 秋田選抜 67 ●
17 1st	19											
18 2nd	16											
17 3rd	12											
16 4th	20											
OT												

主審:Referee
岩田 千奈美 (東京)
副審:Umpire
升屋 章 (秋田)
テーブル・オフィシャルズ:Table officials
能代高校 (女子)

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	阿部 愛美	CAP	22	6	2	0	3	4	×	遠藤 梓	CAP	6	2	0	0	1
5	×	山川 華奈		12	1	4	1	1	5		天野 紗智		-	-	-	-	-
6	/	高橋 香織		7	0	2	3	0	6		斉藤 渚		-	-	-	-	-
7	/	大沼 美咲		10	0	5	0	2	7	/	笹木 香澄		5	0	2	1	3
8		関川 咲		-	-	-	-	-	8	×	山谷 美架		3	1	0	0	2
9	/	武田 洋佳		2	0	1	0	0	9		加藤 志織		-	-	-	-	-
10	×	佐藤 麻里子		3	0	1	1	1	10	/	大石 美早紀		6	0	2	2	2
11		武田 小友香		-	-	-	-	-	11	×	二田 佳奈		6	0	2	2	2
12		佐々木 ひとみ		-	-	-	-	-	12	×	工藤 梢		25	7	2	0	1
13		大場 真央		-	-	-	-	-	13	/	菊池 亜寿沙		2	0	1	0	1
14		佐藤 綾美		-	-	-	-	-	14		伊賀 春奈		-	-	-	-	-
15		吉田 彩奈		-	-	-	-	-	15		黒澤 早苗		-	-	-	-	-
16		森川 千尋		-	-	-	-	-	16	×	高橋 彩		5	1	1	0	3
17	×	佐藤 綾香		4	0	2	0	0	17	/	米川 佳穂		6	0	3	0	1
18	×	加藤 千尋		8	0	4	0	0	18	/	眞田 ひかる		3	1	0	0	0
コーチ		高橋 仁							コーチ		嘉藤 喜隆						
Aコーチ		吉田 佳代							Aコーチ		樋渡 真						
合 計				68	7	21	5	7	合 計				67	12	13	5	16

※ ×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q、秋田#16高橋のミドルで幕を開ける。しばらくこう着状態が続くが、秋田は3P3本、#11二田のインサイドでの踏ん張り得点を重ねる。一方の山形は、テンポの良いパッシングゲームから#4阿部の外角で応戦するも、インサイドといま一つかみ合わない。終盤まで淡々としたゲームが続くが、残り5秒、山形#5山川がインターセプトからレイアップに持ち込み、山形17-19秋田の2点差に詰め寄り終了。

2Q、秋田はフルメンバーチェンジ。開始早々、山形#4阿部の3Pで逆転する。秋田は激しいディフェンスで相手のターンオーバーを誘うも、それを得点に結び付けられない。6分を経過して、フリースローのみの1得点。その間に山形は内外バランスよく加点しリードを広げる。残り4分を切り、秋田は相手のミスから#7笹木が走ると、ようやくペースを掴み、残り1:09には#17米川のミドルで30-32と逆転に成功した。その後は互いに点を入れあい35-35同点で前半を終了。

3Q、スタメンに戻した秋田だが、パスミスが目立ちシュートまで至らない。一方の山形は良い形でシュートに持ち込むもリングに嫌われる。秋田は二度のフルメンバーチェンジを行い、ディフェンスもマンツーマンとゾーンプレスを使い分け、相手のミス誘う。#12工藤が3連続の3Pを決め45-47と逆転するも、山形#4阿部が入れ返し再び逆転。その後も秋田は最後までディフェンスをがんばるが要所でのリバウンドが取れず、山形52-47秋田と差を広げられた。

4Q、反撃に転じたい秋田は、オールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、#10大石が得点するも、山形は#5山川の3Pで譲らない。その後も秋田の激しいプレッシャーが続くが、最後の詰めが甘く連続得点を許す。得点も#12工藤の3Pに頼るのみ。残り1分を切って山形68-59秋田。このまま試合終了かと思われたが、ここから秋田が#8山谷#4遠藤の3Pを含む8連続得点で1点差にまで詰め寄り見せ場を作るもそのままタイムアップ。68-67で山形が逃げ切った。

ディフェンス・オフェンスともに最後の詰めに課題を残した秋田に対し、要所要所に着実に得点しゲームを進めた山形の試合巧者ぶりが光ったゲームであった。